

■洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会） 6月度学術講演会
（2013/6/20, 18:30～, 会場；ステーションホテル小倉）

「慢性腎臓病の薬物治療とピットフォール」

社会医療法人 製鉄記念八幡病院 腎臓内科 部長 柳田 太平 先生

〔講演要旨〕

日本の透析人口は、年々増え続け 30 万人を超え、世界の透析人口の 16%をしめる透析大国となっている。また保存期慢性腎臓病も 8 人に 1 人と非常に多いことが分かっている。腎機能障害が進んだ保存期腎不全の薬物治療は血圧、血糖、脂質、尿酸、腎性貧血のコントロール、活性炭の内服などが中心となるが、近年、心血管病リスク上昇や重症低血糖などの問題から血圧、血糖を下げればよいという時代ではなくなり、患者の原疾患、年齢に合わせたテーラーメイドな治療が必要となってきている。

腎排泄性薬剤は多く、腎障害の程度に合わせて薬剤を使用する必要があるが、腎機能を測定されずに投薬されたり、腎機能がわかっても薬剤師が知り得ない場合も多く、チェックされずに投薬され、薬害が起こることも多い。

今回は、慢性腎臓病の最近の治療の動向とその落とし穴（ピットフォール）についてお話しします。